資料２－１

(仮)足立区文化芸術推進計画

素案

**はじめに**

**目　次**

計画のあらまし

[第１章　共通理念 1](#_Toc21331542)

[**１　人生100年時代を生き抜くために** 1](#_Toc21331543)

[**２　文化・読書・スポーツの可能性** 2](#_Toc21331544)

[第２章　計画の考え方 4](#_Toc21331545)

[**１　本計画における文化芸術の捉え方** 4](#_Toc21331546)

[**２　計画の目指す将来の姿** 4](#_Toc21331547)

[**３　計画の位置づけと計画期間** 4](#_Toc21331548)

[**４　計画の推進体制** 6](#_Toc21331549)

[第３章　現状と課題 9](#_Toc21331550)

[**１　現状** 9](#_Toc21331551)

[**２　課題** 13](#_Toc21331552)

[第４章　施策展開 16](#_Toc21331553)

[**１　施策体系** 16](#_Toc21331554)

[**２　重点項目** 18](#_Toc21331556)

[**３　施策と事業** 19](#_Toc21331557)

**第５章　資料編**

**１　事業一覧（令和２年度）**

**２　関連する国等の動向**

**３　関連条例等**

**４　計画策定の経過**

**５　計画策定に向けての調査事項**

# 計画のあらまし

**課題**

**目指すべき姿**

**共通理念　 楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる**

①　身近に文化芸術の魅力を感じる機会や、活動意欲を刺激する講座・イベントが少ない

②　就学前からの成長に応じた段階的なアプローチができていない

③　足立区の伝統文化や文化資源に触れたことのある区民が少ない

④　文化芸術の広がりを推進するプラットフォームづくりができていない

年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが文化芸術を身近なところでも気軽に楽しめる環境が整っている

区民が文化芸術を通して、生活の中で楽しさや感動に出会うとともに、創造力や自己肯定感、表現する意欲を養っている

文化芸術に親しみ共に楽しむ中で、様々な人々の出会いや交流が生まれ、文化芸術活動の新しい担い手が増えている

**あ**

**柱２**

**区民の活発な文化芸術活動を**

**促進する**

**柱３**

**足立区の文化資源を**

**次世代に継承する**

**柱４**

**文化芸術の輪を広げる**

**プラットフォームを形成する**

**柱１**

**生涯を通じて**

**文化芸術との出会いを創出する**

**施策４－２【←課題④】**

**連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る**

**p.31**

**施策３－１【←課題①③】**

**文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する**

**p.27**

**施策４－１【←課題①②③④】**

**足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する**

**p.30**

**施策３－２【←課題③④】**

**次世代につなげる地域の伝統文化の継承・活性化を行う**

**p.28**

**施策２－３【←課題①④】**

**活動の成果を発揮できるイベントを開催する**

**p.25**

**施策１－１【←課題①②③】**

**文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する**

**p.19**

**施策２－２【←課題①④】**

**個人や団体の活動の継続を支援する**

**p.24**

**施策２－１【←課題①②】**

**活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす**

**p.23**

**施策１－２【←課題①②③】**

**子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する**

**p.21**

**施策の柱**

**施　策**

# 第１章　共通理念

**第１章　共通理念**

## **１　人生100年時代を生き抜くために**

英国のリンダ・グラットン教授らによれば「2007年に日本で生まれた子どもの半分は、107年以上生きる」※[[1]](#footnote-2)とされるなど、日本人の寿命はこれまで以上に延伸することが予想され、国も「人生100年時代構想会議」を立ち上げ準備に入りました。

長くなった一生をできる限り健康で、心豊かに生き抜くことができる地域社会が求められるのは当然のことですが、持続可能な自治体運営の観点からも、その実現は喫緊の課題です。そこで当区では、健康な心と体を基本としつつ、生きがいや充実感をもって日々を心豊かに生きていくための不可欠な要素として、以下の6点を掲げました。

１　自分のやりたいことに取り組もうとする意欲

２　何歳になっても知らないことを知り、学ぼうとする態度

３　新しいことにチャレンジし、始めようとする好奇心

４　異なる考え方や価値観を尊重しようとする姿勢

５　まわりの人の役に立とうとする気持ち

６　地域とのつながりを持とうという思い

しかしながら、こうした要素を必ずしも皆が生まれながら持ち合わせているわけではありません。日常の生活を通じて各人が育み、磨き上げることも必要となります。そのきっかけとなりうるのが、文化・読書・スポーツの3分野と考え、計画の一体的な策定に着手しました。図書館・体育館等が一体となった複合施設が多数存在する当区にとって、分野横断的な発想は、施設のさらなる有効活用を通じて、施策の一層の充実につながります。

北千住が住みたい街にランクインするなど、徐々に当区のイメージは変わりつつあり、子育て世代を中心に人口も現在、増加傾向にあります。今後はさらに、身近なところで文化・読書・スポーツに親しむ機会を設け、それらを楽しむ区民を増やし、元気でいきいきとした地域社会の実現を目指します。足立区に住んでいれば心身ともに自ずと健康で心豊かに生活できる。だからこそ「住みたい」「住み続けたい」と誰もが思う持続可能な自治体へと、着実に歩みを進めていきます。

## **２　文化・読書・スポーツの可能性**

### **（１）「楽しさ」との出会いが原点**

日々の生活では、仕事・子育て・介護等、様々な場面でストレスを感じることも多々ありますが、「楽しい」と思える「何か」を見つけることで、気分を変えたり、困難を乗り越えたりすることができるのではないか？その「何か」に出会える最良のきっかけとなるよう、文化・読書・スポーツの計画策定にあたり、「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」を共通理念に掲げ、相互の関連を意識しつつ施策を組み立てていきます。

「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」

■図表１　共通理念の検討プロセス

第５回推進会議

(平成30年８月)

第４回までの議論を踏まえ、共通理念素案「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」を策定

第４回推進会議

(平成30年７月)

第３回の議論を踏まえ、「人生100年時代を心豊かに生きるための６つの要素」について意見交換を実施

第３回推進会議

(平成30年６月)

第２回の議論を踏まえ、人生100年時代を心豊かに生きるための「25のキーワード」「６つの人物像」について意見交換を実施

第２回推進会議

(平成30年５月)

「人生100年時代を豊かに生きるひと」について意見交換を実施

### **（２）共通理念は心豊かに生きるためのキーワード**

理念にこめた心豊かに生きるためのキーワードは次の３つです。

１　楽しさに気づく

２　楽しさを深める

３　楽しさを広げる

「楽しさに気づく」が全ての始まりです。文化・読書・スポーツに親しむきっかけは、それぞれの体験を通じて味わう喜びや感動、楽しいと思う感情だからです。

その感情が徐々に高まってくると、次にそこから一歩踏み出して、文化・読書・スポーツ活動に自ら主体的にかかわろうとする思いが生まれます。感情が深まることが能動的な活動につながります。

そして、より積極的な活動を通じて多くの人々と楽しさを共有し、楽しさの輪が「広がる」ことで、さらに各人に新たな気づきが生まれます。

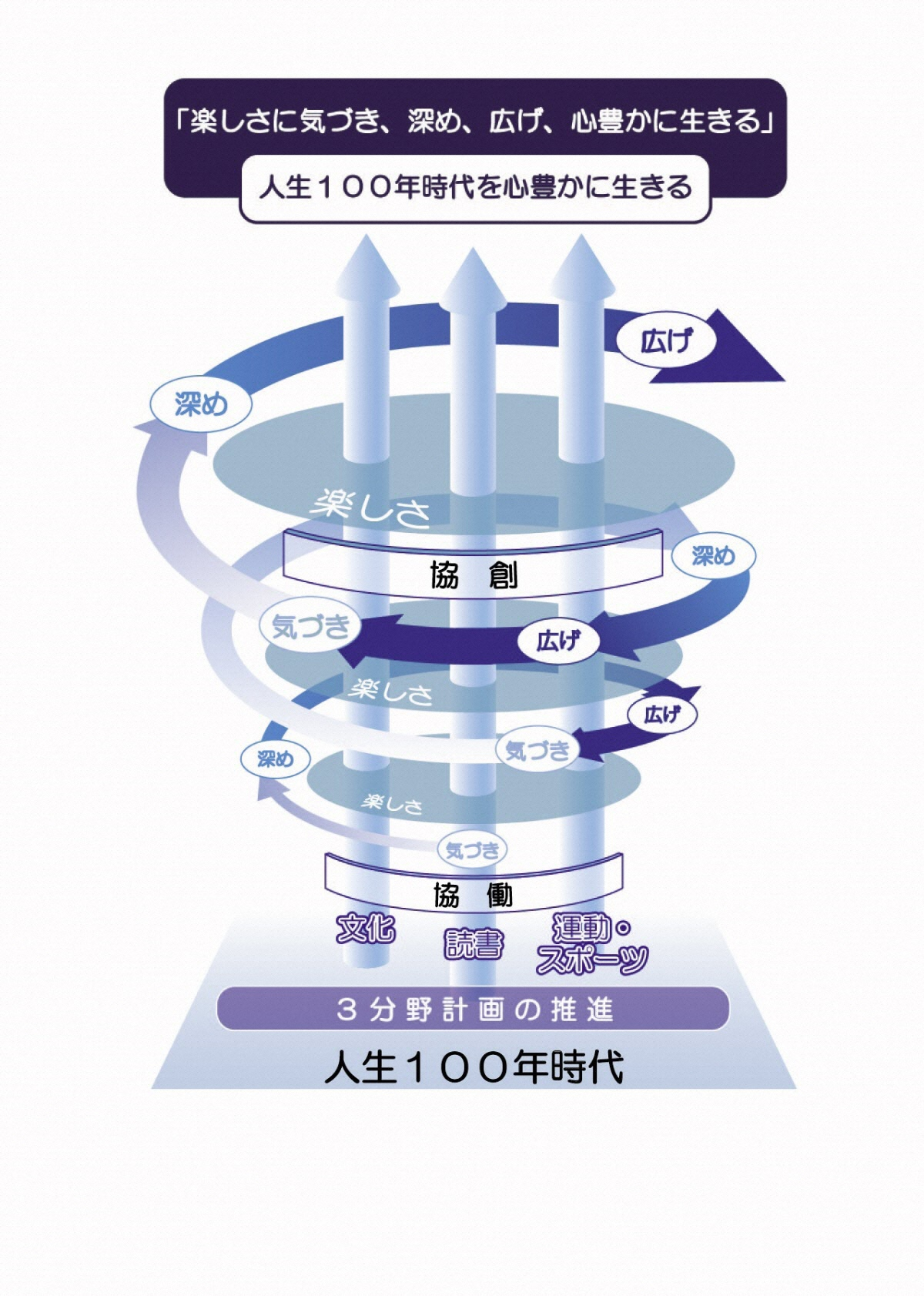
本計画の策定を通じ、そのようなスパイラルを地域に巻きおこせるような施策展開を目指します。

### **（３）協働・協創※[[2]](#footnote-3)による文化・読書・スポーツの推進**

**第１章　共通理念**

文化・読書・スポーツの３分野を通じて区民一人ひとりの心豊かな生活を実現するためには、単に区のみが主体的に行動するばかりでなく、学校や関係団体、事業者などが当事者意識を持って、様々な形で連携していくことが不可欠です。

区は多様な主体による活動の状況を把握しつつ、各活動をゆるやかにつなぐコーディネーター等の役割も担うことで、協働・協創による文化・読書・スポーツ施策の推進を図っていきます。

　■図表２　共通理念のイメージ

# **第２章　計画の考え方**

## **１　本計画における文化芸術の捉え方**

文化芸術基本法の前文に、「文化芸術は、人々の創造をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることのできる心豊かな社会を形成するもの」とあります。また、国の文化芸術推進基本計画には、「文化芸術は、心豊かな活力ある社会の形成にとって極めて重要な意義を持つもの」とされています。

本計画では上記の意義を踏まえ、文化芸術を「区民一人一人の豊かな心を育む要素」、文化芸術活動を通して感じる楽しさや面白さ、達成感など、「心を動かされる体験に触れること」を文化芸術に親しむことと捉え、文化芸術施策を推進していきます。

## **２　計画の目指す将来の姿**

共通理念を踏まえ、文化芸術分野において目指すべき姿を次のように定めます。

○　年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが文化芸術を身近なところでも気軽に楽しめる環境を整えること

○　区民が文化芸術を通して、生活の中で楽しさや感動に出会うとともに、創造力や自己肯定感、表現する意欲を養っていくこと

○　文化芸術に親しみ共に楽しむ中で、様々な人々の出会いや交流が生まれ、文化芸術活動の新しい担い手が増えていくこと

## **３　計画の位置づけと計画期間**

### **（１）計画の位置づけ**

本計画は、区の最上位計画である足立区基本構想・基本計画を踏まえ、足立区読書活動推進計画・足立区運動・スポーツ推進計画と一体的な取り組みを行っていきます。

■図表３　計画の位置づけ

足立区基本計画

施策群③　生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動を実践できる仕組みをつくる

足立区基本構想

**ひと分野**

**理念を反映**

足立区教育大綱

　　　・シティプロモーション

戦略方針

　　　・足立区障がい者計画

　　　・足立区教育振興ビジョン

区の主な

関連計画

足立区文化芸術振興基本条例

**(仮) 足立区**

**文化芸術**

**推進計画**

　　文化芸術推進基本計画

　　文化芸術基本法

国

(仮) 足立区

運動・スポーツ

推進計画

(仮) 足立区

読書活動

推進計画

共　通　理　念

**連　携**

**整　合**

### **（２）計画期間**

**第２章　計画の考え方**

本計画では令和２年度から令和７年度の６年間を計画期間として、区民の文化芸術活動の推進に取り組んでいきます。なお、計画の中間年にあたる令和４年度に事業成果と進捗状況を検証した上で、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

■図表４　計画期間

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | ９ |
| 足立区基本構想　※30年後を見据えて作成 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 足立区基本計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区文化芸術推進計画 |  |  | 中間検証 |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区読書活動推進計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| (仮)足立区運動・スポーツ推進計画 |  |  |  |  |  |  |  |  |

## **４　計画の推進体制**

### **（１）推進主体と役割**

計画の推進にあたっては、ライフステージごとの文化芸術活動とのかかわりを踏まえつつ、区、区民、区内文化芸術団体、学校、民間団体・事業者等が各々の役割を担うとともに、協働・協創による取り組みを進めていく必要があります。各主体の役割の考え方は以下のとおりです。

**区（生涯学習振興公社※[[3]](#footnote-4)を含む）**

　○　文化芸術関連施策の策定及び推進にあたって、広く区民等の意見を反映させるために必要な措置を行います。

　○　文化芸術関連施策の推進にあたって、区民等が行う文化芸術活動が円滑に行われるよう留意するとともに、区民等の協力を求め、または区民等が保有する人材、情報その他の資源を活かすよう努めます。

　○　区民等が文化芸術に触れる機会を拡充し、文化芸術活動への参加と交流を促進するため、文化芸術活動の推進に関わる環境を整備するとともに、区民等の関心及び理解を深めるよう努めます。

　○　区が行う施策に文化芸術の視点を取り入れるよう努めます。

　○　文化芸術関連事業に総合的かつ効果的に取り組み、文化芸術活動の推進に積極的な役割を果たします。

**区民**

　○　文化芸術活動に親しみ、人や地域との交流を深め、生涯にわたって文化芸術を楽しむことが期待されます。

　○　協働・協創の関係を通じて、文化芸術を推進する一翼を担うことが期待されます。

**区内文化芸術団体**

　○　自主性と創造性を活かして文化芸術活動を継続するとともに、活動の中で培われた経験や技術を次世代に継承し、文化芸術の発展に寄与することが期待されます。

　○　文化芸術活動の主体となり、行政と対等な関係において、協働・協創による文化芸術の推進の一員となることが期待されます。

**学校**

　○　児童、生徒、学生の文化芸術作品に触れ、文化芸術活動を体験する機会を充実させることに努めるとともに、人材その他の資源を活用し、文化芸術活動の推進に積極的な役割を果たします。

**民間団体・事業者等**

**第２章　計画の考え方**

　○　地域社会を構成する一員として、文化芸術活動を行う区民等との協働・協創に努めることによって、文化芸術活動の推進に積極的な役割を果たします。

■図表５　推進主体とライフステージ

図表が入ります

### **（２）計画の評価**

各施策の着実な推進のためには、進捗状況の評価と必要に応じた施策の改善が必要です。各施策の進行管理については、ＰＤＣＡサイクル、すなわちＰｌａｎ（計画）－Ｄｏ（実行）－Ｃｈｅｃｋ（検証）－Ａｃｔｉｏｎ（改善）のマネジメントサイクルを用い、毎年度事業のチェックと改善を行って、着実な事業展開を図ります。

そのため、足立区文化芸術推進計画・足立区読書活動推進計画・足立区運動・スポーツ推進計画を一体的に管理・評価する組織として「（仮）文化・読書・スポーツ推進委員会」を設置し、数値目標や事業の取組実績に基づき、本計画の推進と進行管理の徹底を図ります。

■図表６　ＰＤＣＡサイクル

**Ｐｌａｎ（計画）**

**PDCAサイクル**

**Ｃｈｅｃｋ（検証）**

**Ａｃｔｉｏｎ（改善）**

**Ｄｏ（実行）**

**(仮)文化・読書・スポーツ推進委員会**

# **第３章　現状と課題**

**第３章　現状と課題**

## **１　現状**

### **（１）区内の主な文化芸術関連施設について**

■図表７　文化芸術施設マップ

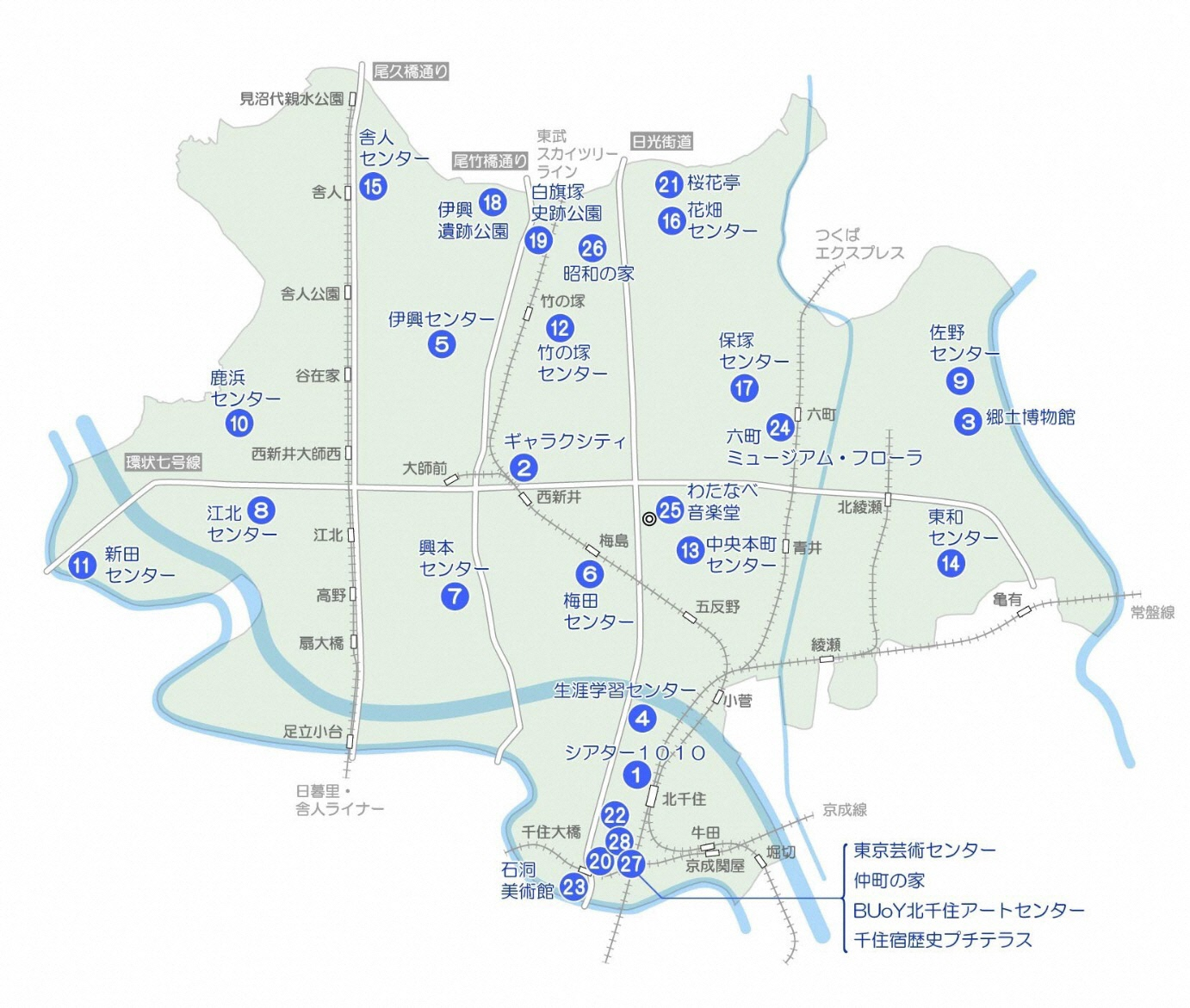
|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **施設名称** | **所在地** | **施設概要** |
| **シアター1010**  **（足立区文化芸術劇場）** | 千住3-92 | 劇場（701席）、稽古場、ギャラリー、アトリエ、視聴覚室、講義堂、音楽練習場 |
| **ギャラクシティ**  **（こども未来創造館、西新井文化ホール）** | 栗原1-3−１ | こども未来創造館（スペースあすれちっく、まるちたいけんドーム等）、西新井文化ホール（902席） |
| **郷土博物館** | 大谷田5-20-１ | 展示室、東渕江庭園、臨渕亭（茶室） |
| **生涯学習センター** | 千住5-13-5 | 講堂、研修室、コンピュータ学習室等 |
| **地域学習センター** | 区全域 | 13施設（学習室、レクホール等） |
| **伊興遺跡公園** | 東伊興４-9-1 | 伊興遺跡公園展示館、竪穴住居復元展示 |
| **白旗塚史跡公園** | 東伊興3-10-14 | 白旗塚古墳、埴輪のオブジェ |
| **千住宿歴史プチテラス** | 千住河原町21-11 | 「横山家」の内蔵を移築、ギャラリー |
| **花畑公園・桜花亭** | 花畑4-40-1 | 花畑記念庭園、桜花亭カフェ |
| **東京芸術センター** | 千住1-4−１ | ホール（400席）、会議室、和室 |

《参考》民間の主な文化芸術関連施設

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **施設名称** | **所在地** | **施設概要** |
| **石洞美術館** | 千住橋戸町23 | 美術館、平成18年4月開館 |
| **六町ミュージアム・フローラ** | 六町2-5-35 | 美術館、平成24年6月開館 |
| **わたなべ音楽堂〈ベルネザール〉** | 中央本町4-12-5 | サロンホール、平成18年10月オープン |
| **昭和の家〈平田邸〉** | 西保木間2-5-10 | 縁側カフェ、平成24年登録有形文化財指定 |
| **BUoY北千住アートセンター** | 千住仲町49−11 | 劇場・カフェ等、平成29年7月オープン |
| **仲町の家** | 千住仲町29-１ | 千住の文化サロン、戦前の和式建造物 |

■図表８　文化芸術施設マップ

テキスト, 地図 が含まれている画像

自動的に生成された説明****

### **（２）区のこれまでの取り組み**

**第３章　現状と課題**

「足立区文化芸術振興基本計画」（平成18年11月策定）

区では、平成18年度より「足立区文化芸術振興基本計画」に基づき、「文化芸術の潤いある心豊かな区民生活の実現」、「文化芸術の薫り高い活力ある地域社会の形成」の目的を達成するため、以下８つの目標を掲げ、取り組んできました。

|  |  |
| --- | --- |
| 目標１ | 区収蔵美術作品等の活用 |
| 目標2 | 文化芸術活動のネットワーク形成と効果的な情報提供 |
| 目標3 | 文化芸術活動の鑑賞機会と参加する機会の充実 |
| 目標4 | 新たな文化芸術関連施設との連携 |
| 目標5 | 文化芸術振興を担う人材の育成 |
| 目標6 | 青少年の文化芸術活動の促進 |
| 目標7 | 基金を活用した施策の充実 |
| 目標8 | 文化芸術政策の評価 |

ア　（目標１）区収蔵美術作品等の活用

区の収蔵品を一覧化し、区施設への貸し出し展示を実施することで、多くの区民の目に触れる機会を生んできました。また、区内で民間の美術館が複数開設したことにより、区民が美術作品を鑑賞する機会が増えました。

イ　（目標２）文化芸術活動のネットワーク形成と効果的な情報提供

郷土博物館資料をアーカイブとしてホームページで公開し、マスコミ等からの資料提供依頼に迅速に対応できるようになりました。あわせて、誰もが気軽に収蔵品のネット鑑賞をできるようになりました。

ウ　（目標３）文化芸術活動の鑑賞機会と参加する機会の充実

かつては都心まで行かなければ観られなかった質の高い公演や文化芸術の展示をシアター1010の劇場やギャラリーで積極的に開催し、文化芸術の機会提供に寄与してきました。また、地域学習センター等では気軽に鑑賞できる事業を中心に実施し、参加者の満足度は概ね良好でした。

今後は、高齢者施設へのアウトリーチなども増やしていきます。

エ　（目標４）新たな文化芸術関連施設との連携

東京藝術大学と連携し、高い専門知識やノウハウを「おとあそび」の研修会を通じて保育士に伝えることで、多くの子どもたちが楽しめるようになりました。

オ　（目標５）文化芸術振興を担う人材の育成

郷土芸能保存会や華道茶道連盟による子ども体験教室・伝統文化こども教室を実施し、鑑賞や実演指導などを行うことで、伝統芸能や文化に関心を持つきっかけづくりを行いました。おはやし事業の開始当初は毎年100人余りが参加する事業でしたが、年々増加し、現在は300人を超えるものとなりました。

カ　（目標６）青少年の文化芸術活動の促進

郷土芸能保存会、歓喜の演、文化団体連合会などと連携し、子どもの頃から文化芸術に触れる機会を提供いたしました。しかし、団体の運営については、スタッフ等の高齢化により人材育成が進んでいない状況があります。

キ　（目標７）基金を活用した施策の充実

平成17年度に創設された文化芸術振興基金は、「子どもと大人の文化芸術体験事業」や「エンターテイメントチャレンジャー支援事業」など文化芸術への関心を高める事業を支えるために活用しています。

ク　（目標８）文化芸術政策の評価

これらの成果として、学習センターにおける鑑賞事業への参加者数は平成18年度の約1,400人から平成29年度の約２万人と約14倍に増加しました。

## **２　課題**

**第３章　現状と課題**

### 平成30年度に実施した「文化・読書・スポーツに関するアンケート調査」等の結果、次のような課題が明らかになりました。

### **（１）身近に文化芸術の魅力を感じる機会や、活動意欲を刺激する講座・イベントが少ない**

一般向けアンケート調査**※**[[4]](#footnote-5)では、過去１年間に文化ホールや美術館・博物館などを訪れ、文化芸術作品などを鑑賞した人の割合は45.1％でした。その中で、区外で鑑賞した人の割合が85.1％であるのに対し、区内で鑑賞した人の割合は45.6％と低くなっています。また、文化芸術に関する体験型のイベントや講座に参加したことがある人の割合は15.7％でした。

さらに、鑑賞や活動を行うためには、手ごろな料金や身近な場所、行きやすい時間帯であることが多く求められており、区内での取り組みや機会の提供がまだまだ十分でないことが分かりました。

■図表９　鑑賞しない人が鑑賞するために必要なこと

### **（２）就学前からの成長に応じた段階的なアプローチができていない**

小・中学生アンケート調査**※**[[5]](#footnote-6)では、過去１年間に文化芸術を鑑賞した子どもは85.5％に対し、一般向けアンケート調査では45.1％でした。文化芸術に親しんでいた子ども達の約半数が、大人になって文化芸術から離れてしまっています。

また、小・中学生アンケート調査では、就学前に文化芸術に親しんでいた子どもは、小学５年生・中学１年生になっても文化芸術に親しんでいる割合が、18ポイントも高いことが分かりました。

このことから、就学前から文化芸術に親しむ機会の充実とともに、成長に合わせて継続的に提供していく取り組みの重要性が明らかとなりました。

■図表10　文化芸術の関心と鑑賞の割合



### **（３）足立区の伝統文化や文化資源に触れたことのある区民が少ない**

区内には郷土博物館や伊興遺跡公園展示館があり、足立区の歴史や文化財などに触れるための展示やイベントを開催しています。しかし、それらの施設を訪れた人やイベントに参加した事のある人は、図表11のとおり少ないことが分かりました。

こうした状況を改善するためには、区民座談会でも指摘されたように、子どもの頃から足立区の歴史や伝統文化に親しむ取り組みを増やすことが必要と言えます。

また、区による文化芸術に関する情報発信が十分でないことも要因の一つと考えられます。文化芸術の分野は多岐にわたり、事業の対象や目的によって所管課も様々であることから、情報の集約と整理が出来ていないのが現状です。対象に応じた効果的なツールでの情報発信など、改善が求められています。

**第３章　現状と課題**

■図表11　区の伝統芸能・文化財などを鑑賞した割合



### **（４）文化芸術の広がりを推進するプラットフォームづくりができていない**

足立区の文化芸術環境を豊かに発展させていくためには、区民や区内の様々な団体等の活動が活発に行われることが重要です。

推進会議や区民座談会でも、積極的に文化や芸術に関わりたくても、人と人・人と場・人と情報がつながる環境が十分でないとの意見が挙げられました。

このことから、区内で活動する個人や団体がどのような支援を必要としているかをしっかりと把握するとともに、互いに顔の見える関係をつくるプラットフォームを構築し、文化芸術活動を行う様々な主体と、それを必要とする人たちが区内で活発に活動できる素地を作り上げる必要があります。

# **第４章　施策展開**

## **１　施策体系**

**目指すべき姿**

**共通理念　 楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる**

**施策の柱**

年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、区民のだれもが文化芸術を身近なところでも気軽に楽しめる環境が整っている

区民が文化芸術を通して、生活の中で楽しさや感動に出会うとともに、創造力や自己肯定感、表現する意欲を養っている

文化芸術に親しみ共に楽しむ中で、様々な人々の出会いや交流が生まれ、文化芸術活動の新しい担い手が増えている

**柱３**

**足立区の文化資源を**

**次世代に継承する**

**柱２**

**区民の活発な文化芸術活動を**

**促進する**

**柱１**

**生涯を通じて**

**文化芸術との出会いを創出する**

**柱４**

**文化芸術の輪を広げる**

**プラットフォームを形成する**

# 

**第４章　施策展開**

**施策２－２**

**個人や団体の活動の継続を支援する**

**p.24**

・情報の集約及び効果的情報発信【新規】

・文化芸術の推進につなげる普及活動【新規】

・文化芸術交流会（仮）の開催【新規】

・音まち千住の縁　文化サロン「仲町の家」

・コンサートinミュージアム

**施策３－１**

**文化財・文化遺産を調査し、**

**保存・活用する**

**p.27**

**施策３－２**

**次世代につなげる地域の伝統文化の継承・活性化を行う p.28**

・文化団体への支援

・文化芸術振興基金の活用

**・**あだちエンターテイメントチャレンジャー支援事業

**施策２－１**

**活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす p.23**

・各学習センター事業

・文化・読書・スポーツ活動協創推進事業

【拡充】

**施策１－２**

**子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する**

**p.21**

・ギャラクシティ事業

・子どもの未来応援アウトリーチコンサート

・小学校アウトリーチコンサート

・文化のちから体験会

**施策１－１**

**文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する**

**p.19**

・アートアクセスあだち音まち千住の縁　アートプログラム

・Japan Festa in ADACHI

・シアター1010鑑賞事業

・アトリウムコンサート

・日本文化再発見事業

**施策２－３**

**活動の成果を発揮できるイベントを開催する**

**p.25**

・足立区展・美遊展・文化祭

・サークルフェア・ふれあい祭り

・障がい者アート展

・貴重な文化資源を活用した企画展の開催

・足立の歴史を知るイベント

・小学校・地域学習センターへの出前事業

**施策４－１**

**足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する p.30**

・文化芸術を担う人材の育成【新規】

・郷土芸能を保存・伝承する団体の支援

**施策４－２**

**連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る p.31**

**施　策 　　　　　　　 　　　主な事業**

## **２　重点項目**

**（１）施策推進のための横断的視点**

アンケート調査等を通じて、文化・読書・スポーツ施策を推進する上での様々な課題が明らかになりましたが、その解決にあたり、「子どもの頃から」 「身近」 「つながり」という３分野共通の視点が見えてきました。

100年という長い人生において、子どもの頃から生涯に渡って文化・読書・スポーツに親しむためには、就学前から関心を高める取り組みを行っていく必要があります。

そして、関心を持った区民が実際に３分野の活動に親しむためには、身近な所に楽しめる機会や場が設けられていることが重要になります。

さらに、それぞれの活動を深め、広げるには、協働・協創の視点も踏まえ、多様な主体が当事者意識を持ってゆるやかにつながり、様々な形で連携していくことが鍵となります。そうすることで、新たな活動が生まれることが期待されるからです。

**（２）文化芸術分野における重点項目**

これまで足立区文化芸術振興基本計画のもと、区民が文化芸術に触れる機会を提供するために、様々な事業を行ってきました。しかし、推進会議や区民座談会において、人と人・人と場・人と情報がつながる環境が十分でないとの意見があったことからも、足立区全体で文化芸術が活性化していくためには、関係する様々な主体がつながる仕組みづくりが必要です。

そのため本計画では、文化芸術のつながりを作っていくために、以下のことを重点的に進めていきます。

ア　連携や交流の創出によるプラットフォームの形成

　　活動や感動の共有、郷土芸能や伝統文化の継承、新しい文化の興りにつながるコミュニティの形成など、一人ひとりが文化芸術を楽しみ、その活動が活性化していくために、人々の交流や連携が生まれる仕組みを整えていきます。

　（事業例）

　　　・　施策４－２　文化芸術交流会(仮)の開催　新規

　　　　　　　　　　　コンサートinミュージアム

イ　情報によるネットワークの形成

　　文化芸術に関する情報を集約し、広報紙やICTを活用して発信していくことにより、必要なときに人々がつながれるツールとできるよう整備していきます。

　（事業例）

　　　・　施策４－１　情報の集約及び効果的情報発信　新規

## **３　施策と事業**

**第４章　施策展開**

**施策の柱１　生涯を通じて文化芸術との出会いを創出する**

区民が生涯に渡って文化芸術に親しむために、子どもから高齢者、障がい者や外国人など、誰もが文化芸術の魅力に「気づき」、楽しいと思える出会いの機会を充実させていきます。

また、アンケート調査により就学前からの取り組みの重要性が明らかとなったことを踏まえ、特に子どもたちに対しては、人生100年時代を楽しく力強く生きていくために、「文化芸術を楽しむ心」を育てる取り組みを強化します。

### **施策１－１　文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する**

文化芸術との出会いは、実際に体験・体感することから始まります。文化ホールや劇場でのコンサートや舞台鑑賞、イベントや地域ごとの文化施設での取り組みなどを拡充することにより、誰もがいつでも文化芸術を楽しめる機会を創出します。

【主な事業】

アートアクセスあだち音まち千住の縁　アートプログラム

【シティプロモーション課】

千住地域を舞台に、足立区、東京藝術大学などが主催する「音」をテーマにしたアートイベントを展開しています。地域住民や関連団体などと連携し、人と人の縁を結びながら文化振興を図る「区民参加型まちなかアートプロジェクト」が特徴です。

【地域文化課】

日本及び足立区の伝統文化の魅力を、子どもから大人まで幅広い世代に伝える、ギャラクシティにて実施しているイベントです。観るだけでなく、多くの体験プログラムを用意し、ますます増えるであろう訪日外国人に対し、日本文化を紹介しアピールできる「日本代表」になってもらうことを目標としています。

シアター1010鑑賞事業 【地域文化課】

演劇を中心とした話題性のある企画を取り入れた公演を実施し、地域に根ざした文化芸術の拠点として、あらゆる世代が文化芸術を鑑賞できる機会を提供します。

アトリウムコンサート 【地域文化課】

区民が、気軽に無料かつ良質な音楽を鑑賞できる機会を提供するため、年に９回程度、正午から45分間のお昼の時間帯で、区役所本庁舎アトリウムにて開催しています。

日本文化再発見事業 【地域文化課】

日本文化の魅力を発信するため、「東京2020文化オリンピアード」で定められている残すべき４つのレガシーコンセプトに基づく公演や事業を、シアター1010にて企画・実施していきます。

【４つのレガシーコンセプト】

　・　日本文化の再認識と継承・発展

　・　次世代の育成と新たな文化芸術の創出

　・　日本文化の世界への発信と国際交流

　・　全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

### **施策１－２　子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する**

**第４章　施策展開**

未来ある子どもたちが人生を楽しく心豊かに生きていくために、より多くの文化芸術に触れる機会が必要です。足立区では、子どもの成長に応じた効果的な文化芸術のアプローチについて、新たに指針を策定し、「楽しさ」や「面白さ」といった心を動かす体験を数多く、かつ継続的に経験してもらう事業を提供していきます。

創造力・想像力、思考力、コミュニケーション能力など現代社会で生きていくために必要な力を育むとともに、文化芸術の新たな担い手の育成にもつながることから、長期的な展望を持って取り組んでいきます。

【主な事業】

ギャラクシティ事業 【地域文化課】

遊びながら学べる体験型複合施設という特徴を活かし、学校では体験できない遊びや体験を提供し、夢やチャレンジ精神を育みこれからの時代を力強く生き抜く子ども達を育てます。

小学校アウトリーチコンサート 【生涯学習振興公社】

音楽に対する先入観（難解、退屈）が生じる前の小学1年生に向けて、目の前でプロの演奏家による生演奏と働きかけを行います。この体験により、生涯にわたり音楽に親しむ豊かな人間性を育み、児童の未来の可能性を広げます。

文化のちから体験会 【地域文化課】

子どもと大人が一緒に舞台芸術鑑賞をし、文化芸術に親しむ機会を提供する事業です。この事業の一環として、区民が文化芸術活動に触れるきっかけづくりの場を創出し、優れた文化芸術を身近なものとして享受できる機会を提供します。

**成果指標一覧**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策１－１　文化芸術の魅力や楽しさに「気づく」機会を創出する** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策１－２　子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

**施策の柱２　区民の活発な文化芸術活動を促進する**

**第４章　施策展開**

文化芸術の魅力に触れた人々が、区内の文化施設やイベントなど、身近な場所で文化芸術活動（以下、「活動」とする。）をスタートさせ、その活動を深めていけるような講座や発表の場を、ニーズに合わせ提供していきます。

また、文化芸術振興基金の活用や共催・後援などを通じて、個人や団体の活動を支援していきます。

**施策２－１　活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす**

文化芸術に関する様々な体験や創作活動などを、区民が生きがいの一つとして継続的に行えるように、機会の提供や活動の支援を行っていきます。

また、各学習センターにおいて、複合施設という特色を活かし、読書や運動・スポーツ分野の事業と連携することで相互の活動を促進していきます。

【主な事業】

各学習センター事業 【地域文化課】

指定管理者独自の工夫を施した講座・体験活動・鑑賞会など、多種多様な事業展開で、初級から中級、上級とステップアップを図りながら、区民の文化芸術活動を推進します。

文化・読書・スポーツ活動協創推進事業　拡充

【地域文化課／スポーツ振興課／中央図書館】

より多くの区民が文化・読書・スポーツの楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きることができるよう、各分野相互の連携事業を実施します。例えば、図書館利用者に対し、文化芸術活動が始められるような働きかけを行う事業を展開します。

**施策２－２　個人や団体の活動の継続を支援する**

個人や団体が定期的に、また継続して活動できるよう、区のサポート機能を強化していきます。例えば、区内文化団体との共催・後援により文化活動の活性化を図ることや文化芸術事業への文化芸術振興基金の効果的な活用を進めていきます。

また、文化芸術の次代の担い手となる若者や団体が、将来の活躍の一歩となるよう、経験を積む機会を提供していきます。

【主な事業】

文化団体への支援 【地域文化課】

自主的な文化活動を行う区民、団体に対して、申請のあった事業への後援、活動に対する助言、活動の場の提供等を行い、区民の文化芸術活動の拡充に寄与します。

文化芸術振興基金の活用 【地域文化課】

区所管の文化芸術関連施設の設備更新や文化芸術振興及び推進のための事業に基金を使用します。現在は、「子どもと大人の文化体験事業」及び「あだちエンターテイメントチャレンジャー支援事業」に充て、事業の推進に寄与しています。今後は、郷土博物館の改修費用としても活用していきます。

あだちエンターテイメントチャレンジャー支援事業

【地域文化課】

将来メジャーでの活躍を目指す様々な文化芸術分野のアーティストを対象に、練習や公演の場として天空劇場を無料で貸し出すなど、活動を支援しています。

同時に、えんチャレ登録アーティストの公演を、区民に無料で実施することで、文化芸術に親しむ機会を提供しています。

**施策２－３　活動の成果を発揮できるイベントを開催する**

**第４章　施策展開**

個人または仲間と共に作り上げてきた作品を発表する場を設けることは、活動を継続する上での糧となります。目標を持つことで充実した活動を行う動機付けとなるように、区民との協創を図りつつ、区民のニーズに合った発表の場を作っていきます。

【主な事業】

足立区展・美遊展・文化祭 【地域文化課】

足立区展では、絵画、彫刻、図工・美術（平面・立体）、書道（一般・少年）、写真の５分野について、区民からの公募作品による展覧会を開催し、上位入賞者を表彰しています。また、足立区文化団体連合会加盟団体の会員の活動成果を、美遊展・文化祭として、春と秋に、区内各所で発表・展示しています。

サークルフェア・ふれあい祭り 【地域文化課】

全14学習センターでは、年１回利登録団体や地域の方々で組織された実行委員会による、作品展示・発表会・体験コーナー・出店などが楽しめるイベントを開催しています。各センター登録団体の発表と交流の場となる重要なイベントとなっています。

障がい者アート展 【障がい福祉センターあしすと】

国民の間に広く障がい者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障がい者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活躍に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした「障がい者週間」に合わせて、足立区では「障がい者アート展」を開催しています。

**成果指標一覧**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策２－１　活動の継続を促す参加・体験の機会を増やす** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策２－２　個人や団体の活動の継続を支援する** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策２－３　活動の成果を発揮できるイベントを開催する** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

**施策の柱３　足立区の文化資源を次世代に継承する**

**第４章　施策展開**

足立区の歴史的な文化財や文化遺産を見つけ出し、積極的に活用することにより、区民の認知と理解を広め次世代に継承していきます。特に子どもの頃から地域の文化資源に触れる機会を増やし、区民の郷土愛を醸成していきます。

　また、次世代を担う人材の育成や、区民や団体等との協働・協創により、足立区の郷土芸能や地域の伝統文化の継承・活性化を図ります。

昔から足立区に住んでいる区民だけでなく、区内への転入者や訪日外国人などに対しても、足立区の魅力ある文化資源を発信していきます。

**施策３－１　文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する**

有形・無形を問わず、文化財・文化遺産を保護し、次の世代へ残していくための取り組みを行います。区に残る貴重な文化資源が消失してしまわぬように、区民や歴史研究者、郷土博物館協働グループなどの協力を得ながら、調査・収集・保存に努めます。また、区内外を問わず人々の関心を引くPR方法を取り入れながら、積極的に活用していきます。

【主な事業】

貴重な文化資源を活用した企画展の開催  
 【郷土博物館】

足立ゆかりの美術や歴史、生活文化資料を、学芸員による調査・研究の成果とともに、テーマに沿って一定期間（１～２か月程度）展示する展覧会です。企画展の中でも特に規模の大きいものを特別展と冠して開催しています。

足立の歴史を知るイベント 【地域文化課】

年３回程度、小学生を中心とした子どもを対象に、ものづくりワークショップや学習講座などを実施していきます。また、伊興遺跡などで出土した埋蔵文化財の活用や古代の歴史への興味・関心の促進のために、足立区の古代の歴史を次世代に伝えていきます。

小学校・地域学習センターへの出前事業 【地域文化課】

区内小学校や地域学習センターへ出向き、遺跡発掘調査で出土した土器や勾玉等を活用した出前授業を実施します。区内遺跡から発見された出土品の活用を積極的に行い、児童が古代の歴史について興味を持つように促します。

**施策３－２　次世代につなげる地域の伝統文化の継承・活性化を行う**

地域で受け継がれてきた伝統文化を知ることは、地域への愛着や誇りの醸成につながります。文化芸術団体の活動や地域のお祭り・お囃子など、足立区に根付いている魅力的な伝統文化の継承・活性化を支援していきます。

【主な事業】

文化芸術を担う人材の育成　新規　  
 【地域文化課】

主に伝統行事や伝統芸能の体験事業により、次代を担う人材育成の支援を行うとともに、講座や講習会等により、企画の立ち上げやマネジメントを行い足立区の文化芸術を盛り上げていける人材の育成を行います。

郷土芸能を保存・伝承する団体の支援 【郷土博物館】

郷土芸能の保存・継承を目的に、郷土博物館が事務局として足立区郷土芸能保存会の役員会や総会等を開催するなどの支援を行っています。

また、郷土芸能保存会の協力のもと、お囃子や獅子舞などの鑑賞や太鼓の体験などのプログラムを組んだ郷土芸能鑑賞会を開催し、演奏の場を創出することで、郷土芸能の保存と次世代の育成を図っていきます。

**成果指標一覧**

**第４章　施策展開**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策３－１　文化財・文化遺産を調査し、保存・活用する** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策３－２　次世代につなげる地域の伝統文化の継承・活性化を行う** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

**施策の柱４　文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する**

区内には、文化施設や文化芸術にかかわる専門的な人材、民間事業者、教育機関など様々な文化芸術の担い手がいます。それぞれの主体が持つ役割や経験、ノウハウを結びつけることで、相乗効果が生まれ、大きな成果につながることが期待できます。

行政を含め、様々な主体のつながるプラットフォームを形成することにより、協働から協創へと展開し、足立区の文化芸術の更なる発展を推進していきます。

また、文化芸術に関する情報についても、情報を集約し、効果的に区民に届けるとともに、足立区の魅力を全国に発信していきます。

### **施策４－１　足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する**

文化芸術を身近に感じるためには、文化芸術に関する情報の充実も重要な要素となります。区民がどうすればストレスなく必要な情報を得ることができるのか、調査・検討を続けていくとともに、区内外の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やＩＣＴの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行います。

また、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、文化・読書・スポーツに関する情報を、一体的に分かりやすく区民に届けていきます。

さらに、区内の文化施設やイベントを通して、文化芸術の楽しさをより広く知ってもらう普及活動を行います。

【主な事業】

情報の集約及び効果的情報発信　新規 【地域文化課】

行政のそれぞれの所管で発信している文化芸術に関連する事業や区内・区外で行われているイベントの情報などを、地域文化課で集約し、興味をひくチラシやポスターの作成、ホームページやSNSなどの活用により、受けて側のニーズや情報取得の利便性を考え効果的に発信して行きます。

文化芸術の推進につなげる普及活動　新規 【地域文化課】

これまで文化芸術に関心がなかった人や、関心があっても行動に移せなかった人に対して、学習センターや文化芸術関連施設、区内で行われているイベントを通じて文化芸術に関連する事業をＰＲしていくことで、文化芸術の楽しさをより広く区民に伝えていきます。

### **施策４－２　連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る**

**第４章　施策展開**

国の文化芸術推進基本計画では、「文化芸術の推進のためには行政機関、文化芸術団体、文化施設、企業等の民間事業者等の関係者相互の連携及び協働が重要である」とされています。

足立区内においても、様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、私設の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍しています。それらの主体がゆるやかにつながるプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図ります。

【主な事業】

文化芸術交流会（仮）の開催　新規 【地域文化課】

現在、文化芸術活動をする側・見る側の垣根を越え、足立区の文化芸術の発展をテーマに、活発な意見交換・情報共有の場を提供することを目的とします。

音まち千住の縁　文化サロン「仲町の家」

【シティプロモーション課】

江戸時代に建てられた歴史ある日本家屋を活用し、アートイベントなどを実施しています。アートファンだけでなく、誰もが文化に触れることができ、多様な人々との交流ができる「まちの文化サロン」として利用されています。

コンサートinミュージアム 【生涯学習振興公社】

区内５か所の民間文化をつなぎ、各施設との協創により、それぞれの特徴や魅力を最大限に活かしたコンサートや催し物を区民に届ける事業です。

区民への文化発信と、地域への愛着や誇りの醸成を図っていきます。

**成果指標一覧**

施策に対する成果指標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **施策４－１　足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| **施策４－２　連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る** | | | |
| **指標** | **現状値** | **中間値** | **目標値** |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |
| ●●●●●●●●●●●●●●● |  |  |  |

1. ※ リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット 『ライフ・シフト　100年時代の人生戦略』、東洋経済新報社、2016、1頁。 [↑](#footnote-ref-2)
2. ※ 協働・協創：協働は、地域課題の解決に向けて、主に行政が目的や手段を設定し、行政からの呼びかけや依頼に応じて、区民が参加・活動する仕組み。一方の協創は、協働では行き届かなかった地域課題の解決や新たな魅力の創出に区民が取り組んでいく仕組みであり、足立区は、多様な主体が自発的に行動しゆるやかにつながるよう、活動を妨げない範囲で活動状況を把握し、必要に応じて支援などを行う。 [↑](#footnote-ref-3)
3. ※ 公益財団法人足立区生涯学習振興公社（以下、「公社」。）は、区民に学習、スポーツ及び文化活動の機会を提供するとともに、人材の育成や自主的活動を支援する事業を行うことで生涯学習を推進し、「生き生きとした地域社会の創造」に寄与することを目的とした組織です。 [↑](#footnote-ref-4)
4. ※ 一般向けアンケート調査：16歳以上の区民8,000人に対して郵送調査を行い、2,842人（35.5％）が回答。 [↑](#footnote-ref-5)
5. ※ 小・中学生アンケート調査：区立小中学校に在籍している小学５年生、中学１年生に対して実施し、各541人、550人の子どもとその保護者が回答。 [↑](#footnote-ref-6)